

令和4年度 日本精神科医学会学術教育研修会 報告

事務部門

駒橋 徹 藤枝 信夫

令和4年9月29日、日本精神科医学会学術教育研修会事務部門が「令和の時代に求められる精神科病院とは」をメインテーマとして、大分県支部の担当によりレンブラントホテル大分を発信場所としてweb開催された。

開会式の後、「精神科医療の将来展望」という演題で、会長の山崎學先生の講演が行われた。精神保健福祉行政の歩みについて、1818年日本で初めて私立の精神科診療所、石丸癲狂院が開院されたことから、1958年特例措置による精神病床増床、1968年精神病床を減らすべきとのクラーク勧告、2004年「入院医療中心から地域生活中心へ」とされた精神保健医療福祉の改革ビジョンが示されたことまで一気に話された。次いで精神科医療における社会的偏見について、日本の精神病床は本当に多いのか？ 精神科病院に入院すると身体拘束されるのか？ 過剰な薬物投与がされるのか？ 医療観察法は適切なのか？ 精神障害者は雇用差別の中で尊厳のある地域生活が送れるのか？ など、具体例を挙げて説明された。最後に精神科医療は、少子高齢化、雇用環境の変化、経済成長の停滞、家族のあり方の変容に合わせて変えるべきと話された。

講演2は、「共生時代 ～ No Charity, but a Chance ～」という演題で社会福祉法人太陽の理事長である山下達夫先生が講演された。ご自身が1歳2ヵ月の時、高熱が続いて脊髄性小児麻痺に罹患し、四肢麻痺となり太陽の家に出会ったことを述べられた。太陽の家は整形外科医であった中村裕先生が、イギリス留学時に日本とイギリスの障害者の置かれた環境の違いに驚き7名の障害者とともに1965年に設立した施設である。山下先生は養護学校高等部卒業後、18歳の時に太陽の家に入所し職業訓練を受け、1984年に三菱商



事太陽（株）に入社してプログラマーとして働かれた。障害者を雇用することで、新しいアイデアや改善が生まれ、管理職・社員ばかりか仕事のシステムも変わり、新しいコミュニケーションが創出されて、人に優しい企業ができると話された。健常者と障害者の共生社会をつくりたいと締めくくられた。

昼食をはさんで、講演3では、「人工知能や情報通信機器を用いた医療の展望」という演題で、特定非営利活動法人遠隔医療協会特任上席研究員である長谷川高志先生の講演が行われた。オンライン資格認定機器の導入が医療機関に義務付けられたが、そのネットワークが電子カルテの情報共有につながるだろうと予測された。情報通信機器を用いた診療についてはDr. to Pat. だけでなく、専門医がいない場合などのDr. to Pat. with Dr. , 病理診断や放射線画像診断のDr. to Dr. などがある。平成9年12月24日に提出された健政発第1075号では、遠隔診療を行うことはただちに医師法第20条等に抵触するものではない、平成30年12月19日提出の医政医発1219第1号ではAI判断の主体は少なくとも当面は医師である、と解釈されている。最近、ランサムウェアにより病院情報システムの破壊や停止を伴う事件が多数発生している。サイバーセキュリティについては政府や関連団体、警察など信用できる機関からの情報をもとに病院が自ら取り組むことが不可欠であると教えていただいた。

講演4は、「2030年改革に向けた病院経営戦略」という演題で、株式会社リンクアップラボ

代表取締役の酒井麻由美先生が講演された。

まず、2022年4月に行われた診療報酬改定について、基本認識として①新興感染症等にも対応できる医療提供対策の構築など、医療を取り巻く課題への対応、②患者・国民に身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現、③健康寿命の延伸、人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」の構築の3点を挙げ、「2022年診療報酬改定のポイントは、少子高齢化問題への対応」と総括された。

次に、今後2030年に向けて、精神科医療領域において重要なポイントとして以下の8項目について解説された。①入院・救急医療強化（精神科救急医療体制の整備の推進等）、②精神科外来（精神科にも「かかりつけ医機能」）、③専門性の強化（医療計画に沿った専門的な疾病への対応）、④引きこもりへの対応（精神科医による往診・訪問診療等）、⑤自殺対策（行政と連携）、⑥児童思春期（学校との連携）、⑦合併症への対応、⑧地域移行・地域との連携。

最後に、介護医療院の現状について解説され、

講演を終了された。

講演5は「医療・介護現場での外国人技能実習生等の活用について」という演題で、公益社団法人日本精神科病院協会外国人技能実習生受入れ管理責任者の中山拓治先生から、まず総論として①日本で就労する外国人のカテゴリーの説明とその比較、②技能実習制度の仕組み、③日精協が受け入れる実習生について、詳細な説明をいただいた。

次に、公益社団法人日本精神科病院協会外国人技能実習生受入れ事業担当者の武井英樹先生より、実際の実務の状況を、現地送り出し機関であるベトナム（ハノイ）のJVSグループ株式会社・JVS高度人材日本語研修センターを例に挙げ、①ベトナム人介護人材について、②介護実習生クラスの概要と学生募集・選考・教育・送り出しの流れについて等、具体的にご講義いただいた。

以上、充実した内容の事務部門の研修会であった。担当して下さった大分県精神科病院協会の皆様にお礼を申し上げます。

（日本精神科医学会
学術教育推進制度学術研修分科会）